麻生区区民会議 第4回若い世代が住みやすいまちづくり部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成27年3月27日（金）午後3時00分～午後5時00分
- 2 開催場所：麻生区役所第4会議室
- 3 出席者：[専門部会委員] 石井委員、金光委員、白井委員、菅野委員、山田委員、吉垣委員
（欠席）上野委員、梶委員、志村委員、高橋委員
[事務局] 企画課 鈴木課長、藤江、佐藤 [コンサルタント] 佐藤
- 4 傍聴者 1名
- 5 議事

（1）企画部会からの報告について

・第4回企画部会の審議内容について菅野委員より説明。区民会議ニュースについて、第5期全体テーマの検討状況について報告。

（2）第5期全体テーマの検討について

・テーマの検討・決定は企画部会に委ねるが、意見がある場合には個別に事務局へ伝える。

（3）調査審議課題の検討について

【決定事項】

・「①麻生区の魅力のブランド化とPR」「②空き家の利活用」「③子ども達とその親などが集う『場』づくり」の3つのテーマがでていますが、大テーマとして「①ブランド化とPR」の検討を進め、その中に「③子と親の場づくり」は包含されていくと考え、同列に検討を進める。「②空き家利活用」も地域の重要な課題であり、同時並行で検討を進め、市・区の施策の動向を見ながら提言内容を検討していく。

・特徴的なブランド化・PRを行い、若い世代の呼び込みがうまくいっている千葉県流山市のマーケティング戦略やプロモーション方法、先進的な取組等について、審議の参考とするため、現地視察と担当部署へのヒアリングを行う。事務局から4月14、17、21日のいずれかでアポイントをとり、都合のつく委員が参加する。

【主な意見】

（麻生区の魅力のブランド化とPR）

・ブランド化とPRを行うことは、子育て世代を呼び込む効果や、地域の高齢化の解決にもつながってくるものになる。

・対外的なPRが不足している。芸術、自然など麻生区の魅力を整理し効果的なPRしていく必要がある。

・外にアピールできる目玉となるものはあるのか。流山市では駅中保育、豊かな自然、資源を活用したイベントなどを使ってうまくPRしている。

・流山市の事例を現地調査に行ってみるのもいい。麻生区にも、芸術、自然、交通の便など、似ている環境があり参考になるのではないかと。どのようなPR方法を行ったのか、担当部署の話聞いてみたい。

（空き家の利活用について）

・空き家を考える上では、麻生区内・近隣の6大学の学生に条件付きで安く貸して住んでも

らえる仕組みについての検討と、活用できる空き家があって貸し主がいるかの実態把握という方向性になるだろう。

- ・ 地域には空き家予備軍が多くある。
- ・ 地域の不動産業者にヒアリングをすると実態がわかるかもしれない。
- ・ 白山や百合ヶ丘などの地域における調査等、区が今後進めていく空き家調査の動向を見ながら区民会議の審議も進めていく必要がある。
- ・ 空き家対策については引き続き審議し実態調査等を進めながら提言の方向性を考えていく。

(麻生区の子育て環境について)

・ 前回の部会で、わくわくプラザが利用されていないという話があった。聞いた話では、事前登録制のため自由に出入りができない、小学1～2年は迎えが必要、などの制約がある。子文のような自由利用とは違いがある。低学年の参加が多いということであった。

- ・ 未就学児から小学校に上がると子どもを預ける場所がなくなる。
- ・ 新百合ヶ丘に有料の子どもを預ける施設があり、車での送迎もある。
- ・ 家の近くに保育所があればいい、駅になくてもいい。
- ・ 対外的にPRするためには、子育て環境にしても、斬新な仕組みを作るなどしないとPRにならない。

→例えば、子育ての経験者が悩みを聞きアドバイスをする仕組み、夜8時まで学童で子供を預かり母親が働きやすい環境づくりなど。

→文科省の「土曜学習応援団」が27年度から麻生区の全16小学校で始まる。出前授業など企業の教育参加の仕組みで、土曜日に子供が参加している間に母親は仕事にいけるといったものである。

(4) 次回への検討

- 千葉県流山市の視察を行うことができれば、その結果を踏まえた審議を進めていく。
- 空き家の実態について、地域の不動産業者等への聞き取り等について検討する。

以上